

## 軍港巡りにおける観光目的を探る

### Investigation on Purposes of Tourism in Visiting the Naval Port

伊藤 寛幸\*1

ITO, Hiroyuki

最近の「艦これ」ブームにみられるように、旧海軍や海上自衛隊が注目されている。軍港巡りなどもそのブームのトレンドといえる。本稿の目的は、軍港巡りにおける観光目的を探ることにある。分析対象は、鎮守府が置かれたまちとしての歴史を有する旧軍港四市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）とする。

キーワード：軍港巡り、ダークツーリズム、艦これ

#### 1.序論

観光を物見遊山と解釈する点に異論はない。しかし、この解釈は一義的ではない。最近では、学びや体験による自己実現などとしてその積義が変化している。現在では、ニューツーリズムと称して、さまざまな分野でさまざまな観光資源が発掘されている。このような状況下、日ごろ立ち入りが禁止となっている場所は、非日常的な空間そのものとなり、観光資源としての価値も高まっている。日ごろ立ち入りが禁止されている空間には、工業地帯のコンビナートや空港滑走路などがある。最近では、工場夜景ツアーが企画されるなど、日ごろ立ち入りが禁止となっている場所は大人の社会科見学として広く知られるところとなっている。さらに、自衛隊およびアメリカ軍の施設については、その立ち入りが厳しく制限されている一方で、広報活動の一環として、護衛艦や駐屯地の一般公開など非日常空間の開放の取り組みもみられる。自衛隊施設および軍事施設などを巡る行為は、その歴史的経緯からダークツーリズムに位置付けられる場合がある。ミリタリーホビーの一分野として戦艦や空母への興味は、戦争遺産としての認識は低く、その構造美（注1）への関心であろうと推察される。大和ミュージアムの開設のころより、最近の「艦これ」（注2）ブームに至るまで旧海軍や海上自衛隊が注目されており、軍港巡り（注3）などもそのブームのトレンドとなっている。同じ対象物（観光資源）でありながら、観光消費の需要者にとっての目的はさまざまである。

関連研究には、上條（2018）、須賀（2017）、彭（2020）、山本（2015）などがある。しかし、最近の軍港巡りに関して観光の目的を整理した研究は少ない。

こうした背景をふまえて、本稿の目的は、軍港巡りにおける観光目的を探ることにある。観光の目的を探ることによって、観光資源としての軍港巡りを活かした地域振興戦略を導き出す一助としたい。

分析手順は以下である。①分析対象の範囲を示す。②分析対象の概要を示す。③軍港巡りのインフォメーション、軍港周辺の観光情報、軍港関連の観光情報を整理する。そのうえで、軍港巡

---

\*1 北海商科大学

りに関して、ダークサイド、ライトサイドなどの視座からキーワード群を抽出し、軍港巡りにおける観光目的を探る。

## 2. データと方法

### 2.1 分析対象の範囲

本稿の対象が、アメリカ軍の施設を除き軍事施設でないことは明らかである。現在、日本では、憲法の定めるところにより「戦力の不保持」を規定している。軍港都市についても、敗戦によっていったんその歴史に幕が閉じられた。とはいえ、その利用目的が、戦前とは明らかに違う場合においても、事実上施設が継続的に使用されているなどの事実がある。よって、本稿では、歴史的な経緯をふまえたうえで「旧軍港」をわかりやすく「軍港」と称することとする。具体的には、鎮守府（注4）が置かれたまちとしての歴史を有する旧軍港四市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市：以下「四市」と称する）を分析の対象とする（日本遺産ポータルサイト（n.d.））。

### 2.2 分析対象の概要

四市の都市概要を表1に示す。

四市は、急峻な山に囲まれ外敵の侵入を拒む湾口、艦艇の航行や停泊が自在にできる湾内、水深の深い穏やかな入江などの共通の地勢条件を満たしている。四市はもともと半農半漁の寒村であったが、急速かつ計画的な軍港都市づくりが進められた点においては、共通の特徴と独自性を有している（旧軍港市振興協議会（2020））。

### 2.3 軍港巡りのインフォメーション、軍港周辺の観光情報、軍港関連の観光情報

観光資源としての軍港巡りとは、船舶を運航する企業等が供給する、観光商品としての施設見学のことである。観光商品としての施設見学とは、具体的には、艦艇、艦船を間近で見るクルージングツアーが中心となる。

軍港巡りのインフォメーションを表2に示す。

- ・軍港巡りの商品名にローマ字を表記しているクルーズは、「YOKOSUKA 軍港めぐり」（横須賀市）および「SASEBO 軍港クルーズ」（佐世保市）の2都市である。
- ・軍港巡りの商品名に「めぐり」を表記しているクルーズは、「YOKOSUKA 軍港めぐり」（横須賀市）、「呉湾艦船めぐり」（呉市）および「海軍ゆかりの港めぐり遊覧船」（舞鶴市）の3都市である。
- ・キャッチフレーズに、アメリカ（米）が入っているクルーズは、「YOKOSUKA 軍港めぐり」（横須賀市）のみである。
- ・料金が最も安いクルーズは1,300円（「海軍ゆかりの港めぐり遊覧船」（舞鶴市））、最も高いクルーズは2,000円（「SASEBO 軍港クルーズ」（佐世保市））である。
- ・所要時間は、最も短いクルーズは30分（「海軍ゆかりの港めぐり遊覧船」（舞鶴市））、最も長いクルーズは60分（「SASEBO 軍港クルーズ」（佐世保市））である。

次に、軍港周辺の観光情報、軍港関連の観光情報を整理する。観光情報の整理にあたっては、四市における観光協会等（注5）の情報に加え「日本遺産（Japan Heritage）」（注6）の情報も援用する。四市は、「日本近代化の躍動を体感できるまち」として共通点を有し、文化庁によって「日本遺産」に認定されていることから、「日本遺産」による情報は、観光振興にとって有効となる。旧軍港市日本遺産活用推進協議会（2017）を援用し、軍港都市の果たしてきた役割および現在の

表1. 旧軍港四市の都市概要

都市名	鎮守府の開庁年	都市概要
横須賀市	1884年（明治17年）	神奈川県の上三浦半島中央部に位置する横須賀市は、三方を海に面した温暖な気候と、緑豊かな自然を有する国際的な都市である。1865年（慶応元年）、日本初の造船所にして近代的な総合工場「横須賀製鉄所」が建設された。その後、海軍のまち横須賀は現在も独自の文化を発展させ続けている。
呉市	1889年（明治22年）	呉市は、呉鎮守府開庁とともに海軍工廠や関連施設が次々に建設され、全国各地から人々が集まり、都市基盤が整備された。1902年（明治35年）に市制が施行され、1941年（昭和16年）には戦艦「大和」が建造されるなど、日本一の海軍工廠を有するまちとして発展してきた。終戦による海軍の解体後は、平和産業港湾都市として復興を遂げ、海上自衛隊呉地方隊が置かれるなど、海上自衛隊との共存共栄のまちづくりが進められた。
佐世保市	1889年（明治22年）	日本本土の最西端に位置する佐世保市は、大小の島々が織りなす「世界で最も美しい湾クラブ」に認定された九十九島と、港を囲む三方の小高い山々に囲まれた、美しい自然に恵まれた港まちである。1889年（明治22年）の鎮守府開庁後、近代的な軍港都市として急激に発展を遂げ、戦後はアメリカ文化が混在する異国情緒漂う港まちとしてにぎわっている。
舞鶴市	1901年（明治34年）	京都府の北東部に位置し、リアス式海岸特有の美しい地形に恵まれた舞鶴は、青い海が目の前に広がる風景明媚な港まちである。日本海側唯一の護りの拠点として1901年（明治34年）に鎮守府が開庁してから100年以上が過ぎた現在でも、ノスタルジックな赤れんが倉庫群が、軍港のまちの歴史を今に伝えている。

注) 旧軍港市振興協議会（2020）を参考に、筆者が作成。

表2. 軍港巡りのインフォメーション

都市名	軍港巡りの名称	インフォメーション			
		運航会社等	キャッチフレーズ等	料金	所要時間
横須賀市	YOKOSUKA軍港めぐり	株式会社トライアングル	日米の艦船を見られる日本唯一のクルーズ	1,600円	45分
呉市	呉湾艦船めぐり	有限会社バンカー・サプライ	呉でしか見ることが出来ない角度でその勇姿を海から仰ぐ、軍港クルージング	1,500円	35分
佐世保市	SASEBO軍港クルーズ	安栄丸水産ばらもん株式会社	軍港、造船、生活航路など「海風の国」佐世保の顔である佐世保港をガイド付きで遊覧する常設クルーズ！	2,000円	60分
舞鶴市	海軍ゆかりの港めぐり	有限会社舞鶴港遊覧船 一般財団法人舞鶴交通安全協会	護衛艦や造船所など海軍にゆかりあるスポットを海からめぐる湾内めぐり	1,300円	30分

注1) トライアングル (2020)、バンカー・サプライ (2020)、長崎県観光連盟長崎県文化観光国際部観光振興課 (2020)、舞鶴港遊覧船 (2020) を参考に筆者が作成。

注2) 料金は大人料金を示す。なお、子供料金、団体割引、市民割引など、料金には複数の設定があるがここでは大人料金のみを示す。

姿を概観し、軍港周辺の観光情報、軍港関連の観光情報を整理する。

軍港周辺の観光情報を表3に、軍港関連の観光情報を表4に示す。

軍港周辺、軍港関連ともに、観光資源は、鎮守府にまつわる構成文化財等がその中心となっている。したがって、テーマが限定的な旅となる可能性がある。ただし、四市各市の周縁部には、著名な観光地およびテーマパークを有している。横須賀市の周辺には、横浜市金沢区八景島にある複合型海洋レジャー施設「横浜・八景島シーパラダイス」、海を挟んで呉市と相對している廿日市市には、荘厳華麗な社殿をもつ世界遺産「厳島神社」、佐世保市には、日本一広いテーマパーク「ハウステンボス」、舞鶴市絶景日本三景の一つ「天橋立」である。軍港のみならず、これらの著名な観光地およびテーマパークなどを旅程に組み込むことによって、各観光資源は相乗的に融合し、新たな価値を生み出す可能性に期待できる。

情報の整理によって4つの点が明らかとなった。

その1) 富国強兵による近代国家建設を目指した明治政府は、欧米列強の軍事力に対抗するため、近代的な海軍力の構築を図った。初戦で勝利した日清戦争に続き日露戦争にも連勝した日本は、欧米からの植民地化を免れた。四市は、日清戦争、日露戦争との深い関わりをもつとともに軍港都市として発展し海軍の要所となった。当時日本がおかれていた国際的な立場を鑑みれば、軍港を巡る旅は、当時の海軍の歴史的役割を理解する点において観光目的となる。

その2) 旧軍港市日本遺産活用推進協議会(2017)において取り上げられている構成文化財のなかの「近代的なインフラ整備」(注7)が観光資源として扱われる機会が少ない。しかし、「近代的なインフラ整備」は、産業近代化の過程を物語るうえで有形無形の価値を今に伝えている。したがって、歴史的価値をより顕在化させることにより、産業遺産および産業遺構が観光資源となり、それらを見学することが観光目的となる。

その3) 太平洋戦争の敗戦によって日本は、占領軍の非軍事化政策のもとで、軍隊の解体、軍事諸制度の廃止、軍港などの軍事施設類の撤去が図られた。しかし、四市の旧軍事施設類は、完全に破壊されることなく、在日米軍の軍事施設として活用されているほか、戦争遺産(戦争遺構)として保存されているのが実情である。戦争や災害をはじめとする人類の悲しみの記憶を巡る旅が、ダークツーリズムの定義であるならば、四市への旅もダークツーリズムの要素を有する。歴史的記録および記憶は、ポジティブな情報のみならず、ネガティブな情報も含めて継承されるべきである。四市には、猿島砲台跡(横須賀市)、旧呉海軍工廠造船船渠大屋根(呉市)、無窮洞(旧宮村国民学校地下教室)(佐世保市)、旧舞鶴海軍兵器廠魚型水雷庫(舞鶴市)などの遺構が現存する。したがって、四市の遺構を巡り、人類の悲しみ(ダークサイド)を直視する行為も観光目的となる。

その4) 各市観光協会等においても、「艦これ」とのかかわりを強めており、その影響の大きさがうかがえる。

横須賀市:ズイパラ!連合艦隊/C2機関(主催)によるイベント「艦これ」鎮守府第三次"瑞雲"祭り in 横浜・八景島シーパラダイス特設泊地 開催記念【拡張作戦】(於神奈川県横浜市、2019年5月10日から6月9日まで)が開催された。ヴェルニー公園とソレイユの丘でのスタンプラリーやコラボフード、限定グッズの販売などが実施された(横須賀集客促進・魅力発信実行委員会(n.d.))。

呉市:呉鎮守府開庁130周年を祝うイベント「130th KURE 2019」(於広島県呉市、10月19日か

ら10月20日まで)の開催において、イベント期間中、物販、ステージイベント、スタンプラリーなど「艦これ」とのコラボ企画が実施された(キニナルベル(2020))。

佐世保市:佐世保地域経済活性化推進協議会の「佐世保地方創生プロジェクトチーム」が、ゲームの運営会社に働き掛けてイベント「艦これ」(於長崎県佐世保市、2019年9月13から16日まで)が開催された。グッズ販売やスタンプラリーなどが人気を集め、4日間で2万人超が訪問し“オタク”と呼ばれる若年層の観光客誘致につながった(長崎新聞社(2019))。

舞鶴市:「艦これ」のファンが京都府舞鶴市で定期的に開く同人誌販売イベント(於京都府舞鶴市、2019年2月10日)が開催された。全国から訪れる来場者の飲食や宿泊で地域経済に好影響を与えており、2月の9回目の開催では初めてJRが臨時列車を運行するなど、地元関係者からは舞鶴の魅力発信の機会にと期待する声が上がっている(京都新聞社(2019))。

「艦これ」などのアニメにゆかりの地を巡る旅は、聖地巡礼と称される新しい旅の形である。いわゆるコンテンツツーリズムと呼称されるニューツーリズムの一形態である。架空の世界でありながら「艦これ」ファンにとっての四市はまさに聖地である。鎮守府をかかえる四市は特別な空間であり、地域資源および観光資源としての価値を十分に有しているといえる。

表3. 軍港周辺の観光情報

都市名	観光情報
横須賀市	汐入・横須賀中央・逸見エリア:安針塚、うみかぜ公園、海辺つり公園、世界三大記念艦「三笠」、旧横須賀軍港逸見波止場衛門、佐野天然温泉 湯処 のぼり雲、猿島公園、JR横須賀駅、十三峠、塚山公園、三笠公園、横須賀芸術劇場、横須賀市自然・人文博物館、ヴェルニー記念館、ヴェルニー公園
呉市	呉中心エリア:大和ミュージアム(呉市海事歴史科学館)、てつのくじら館(海上自衛隊呉資料館)、入船山記念館、美術館通り、呉市立美術館、恋人の聖地、蔵本通り、れんがどおり、本通り、文化ホール、中央公園、大和の錨(いかり)、海上自衛隊呉地方総監部庁舎 旧呉鎮守府(ちんじゅふ)庁舎、呉中央棧橋ターミナル、二河峡、二河水源地取入口、酒造工場見学「酒工房せせらぎ」、呉駅、神田神社 秋祭り、亀山神社大祭、灰ヶ峰、旧呉海軍墓地(長迫公園)
佐世保市	佐世保市街地エリア:弓張岳展望台、船越展望所、九十九島海賊遊覧船みらい、SSK(造船所・クレーン)、させぼ五番街、旧佐世保鎮守府凱旋記念館(市民文化ホール)、眼鏡岩、戸尾市場街・とんねる横丁、海上自衛隊佐世保史料館「セイルタワー」、さるくシティ403アーケード
舞鶴市	東地区:限定公開!舞鶴赤れんがガイドツアー、舞鶴引揚記念館、赤れんが博物館、松尾寺駅前観光交流施設、五老スカイタワー、舞鶴市政記念館、まいづる智恵蔵、東郷邸、自衛隊棧橋、海軍記念館、松尾寺、金剛院、多禰寺

注1) 横須賀集客促進実行委員会(n.d.)、呉観光協会(n.d.)、佐世保観光コンベンション協会(2020)、舞鶴観光協会(n.d.)を参考に、筆者が作成。

注2) 佐世保市街地エリアについては、アクセス順上位10件を採用した。

表4. 軍港関連の観光情報

都市名	観光情報
横須賀市	<p>汐入・横須賀中央・逸見エリアには、日露戦争における連合艦隊の旗艦、戦艦三笠がある。</p> <p>戦艦三笠は、1902年（明治35年）にイギリスで建造された現存する世界最古の鋼鉄戦艦として日本遺産（構成文化財）に認定されている遺構である。</p>
呉市	<p>呉中心エリアには、呉市海事歴史科学館、海上自衛隊呉資料館、海上自衛隊呉地方総監部庁舎旧呉鎮守府庁舎、旧呉海軍墓地などがある。</p> <p>特に、呉市海事歴史科学館は、戦後60年の節目に、映画「男たちの大和／YAMATO」（東映系）の公開などにあわせて開館した通称「大和ミュージアム」と呼ばれている観光スポットである。</p>
佐世保市	<p>佐世保市街地エリアには、軍港と鎮守府に関連する建造物として、旧佐世保鎮守府凱旋記念館（市民文化ホール）をはじめとする防空壕跡をそのまま店舗にした戸尾市場、米軍基地内の赤煉瓦倉庫群などがある。</p> <p>戦後はアメリカ文化に触発されながら独自の文化を育み、佐世保バーガー、外国人バーなどの異文化が混在する点が街の魅力となっている。</p>
舞鶴市	<p>東地区エリアには、引き揚げの歴史を後世に伝えるために多くの資料を展示している舞鶴引揚記念館、旧海軍機関学校大講堂の一部を利用して設置された海軍記念館、海軍の歴史を残す自衛隊棧橋などがある。</p>

注) 横須賀集客促進実行委員会 (n.d.)、呉観光協会 (n.d.)、佐世保観光コンベンション協会 (2020)、舞鶴観光協会 (n.d.) を参考に、筆者が作成。

### 3. 結果と考察

旧軍港市日本遺産活用推進協議会（2017）を援用し、軍港巡りのインフォメーション、軍港周辺および軍港関連の観光情報を整理した。軍港都市の果たしてきた役割および現在の姿からみえた観光の目的を以下に示す。

- ① 当時日本がおかれていた国際的な立場を鑑み、海軍の歴史的役割への理解を深めること
- ② 近代日本の高い技術を認識すること
- ③ 人類の悲しみの記憶を巡ること
- ④ 「艦これ」の聖地として巡礼すること

①および②は、敢闘や奮闘などライトサイドな面を含んだ観光目的である。一方、③は、ダークサイドな面を含んだ観光目的である。さらに、④は、ポップカルチャーを楽しむコンテンツツーリズムである。

### 4. 結論

本稿の目的は、軍港巡りにおける観光目的を探ることであった。本稿で明らかとなった点は以下である。軍港巡りの目的は、訪問者各人の歴史認識の相違を十分にふまえたうえにおいても、① 当時日本がおかれていた国際的な立場を鑑み、海軍の歴史的役割への理解を深めること、② 近代日本の高い技術を認識すること、などのライトサイドな面および、③ 人類の悲しみの記憶を巡ることなどのダークサイドな面が観光目的となる。加えて④ ポップカルチャーの聖地として巡礼することも観光目的となる。ダークツーリズムに加え、コンテンツツーリズムの要素を加味するなど、多様な旅のテーマ設定に期待したい。

近代日本の海防の要として歩んだ四市は、第二次世界大戦後、平和産業港湾都市へと生まれ変

わった。戦争を賛美することなく、引き続き、史実と平和の尊さを後世に伝えることが、軍港が果たす役割であろう。さらに、ポップカルチャーを単なるブームとして終わらせることなく、軍港巡りを継続的に観光資源化へ導くためにも、ポップカルチャーの発信および受け入れ体制のさらなる強化および環境整備が急務となろう。

#### 補論 (Appendix)

本稿の目的は、軍港巡りに関する観光目的を探ることであった。引用および参考としたデータは主に近代史料であった。したがって、遺産や遺構に関する記述も近代史中心であった。価値ある観光資源とは必ずしも遺産や遺構に限ったことではない。時代画期において「現代」を取り上げ補論としたい。本稿が特に注目し、後世に語り継ぐに値する現代の史実は、佐世保における「エンブラ入港阻止闘争 (注 8)」としての現場である。「エンブラ入港阻止闘争」とは、アメリカ合衆国原子力航空母艦エンタープライズ号の佐世保寄港を、いわゆる全学連が阻止しようとして発生した事件である。現場は、平瀬橋および佐世保橋である。今は当然のことながらその面影はない。闘争から50年が経過した節目の2018年に回顧する動きがあった(西日本新聞(2018))。回顧のために現場を訪れる行為も旅の一形態であろう。平瀬橋および佐世保橋は観光スポットではないが、当時闘った団塊の世代のみならず、当時を知らない「艦これ」のファン層世代にとっても、事件現場への訪問という行為によって、安全保障および核を考える旅の新しい形態となるであろう。

#### 注

- 注 1) アシンメトリー (asymmetry) なアングルド・デッキを有する空母の構造美、凌波性を高めるため急坂のように反った前甲板、城塞のような艦橋、機能が極度に凝縮されて生み出された軍艦の構造美などである。
- 注 2) 「艦これ」とは、「艦隊これくしょん」の略称である。実在した艦艇を擬人化し、多彩な「鑑娘」たちを育成・強化することによって、自分だけの強力な連合艦隊を編成する艦隊育成シミュレーションゲームである。2015年にテレビアニメーション放送、2016年に劇場版として映画化されている。旧来の艦艇ファン、ミリタリーファン層などに幅広く支持されているのみならず、各種コンテンツにおいて広く話題となっている(「劇場版艦これ」連合艦隊司令部(2016))。
- 注 3) 現行の日本国憲法下では、本来存在しない軍港をあえて軍港と称するなど、本稿で対象とする軍港の扱いなどについては「2.1. 分析対象の範囲」にて詳述する。
- 注 4) 鎮守府とは、軍港に置かれた海軍の本拠地のことで、日本の周辺海域を分割して防備し、海軍工廠、海軍病院、軍港水道などの施設の運営・監督を行う機関である(旧軍港市振興協議会(2020))。
- 注 5) 観光協会等とは、横須賀集客促進実行委員会(n.d.)、呉観光協会(n.d.)、佐世保観光コンベンション協会(2020)、舞鶴観光協会(n.d.)である。
- 注 6) 「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものである。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体とな



って総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。認定によって、当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなると考えられている（文化庁（2020））。

注7) 「近代的なインフラ整備」には、逸見浄水場（横須賀市）、本庄水源地堰堤水道施設（呉市）、佐世保市水道局水道施設群・菰田貯水池堰堤（佐世保市）、旧北吸浄水場配水池施設（舞鶴市）などがある。国内でもいち早く大規模な水道建設を行なった四市には、壮大な規模の貯水池や堰堤が今も多く残っている。これは、艦艇への給水や工業用水として水がいかに重要であったかを物語る証である。

注8) 「米軍原子力艦艇寄港反対運動（山本（2005）」、「米空母エンタ-プライズ佐世保寄港阻止闘争事件（中谷（1984）」など呼称はさまざまであるが、本稿では、「エンプラ入港阻止闘争」と称する。

#### 【引用・参考文献】

- 井出明（2018）『ダークツーリズム：悲しみの記憶を巡る旅』、幻冬舎。
- 上山和雄編（2017）「軍港都市史研究第IV巻 横須賀編」、清文堂出版。
- 河西英通編（2014）「軍港都市史研究第III巻 呉編」、清文堂出版。
- 上條かおる（2018）「戦間期における軍港都市・横須賀の観光」『立教観光学研究紀要』20、pp.59-60。
- 北澤満編（2018）「軍港都市史研究第V巻 佐世保編」、清文堂出版。
- 坂根嘉弘編（2018）「軍港都市史研究第I巻 増補版 舞鶴編」、清文堂出版。
- 須賀忠芳（2017）「文化資源を活用した観光施策展開の意義とその課題：—京都府舞鶴市を事例に—」『日本国際観光学会論文集』24、pp.43-53。
- 中谷宝悦郎（1984）「道路交通法とデモ行進--「米空母エンタ-プライズ佐世保寄港阻止闘争事件」上告審判決に関する一考察」『警察学論集』37（4）、pp.60-85。
- 彭昕（2020）「艦これ」佐世保鎮守府巡りの特性」『観光学論集』15、pp.63-68。
- 山本理佳（2005）「佐世保市行政による軍港像の創出：1960年代の米軍原子力艦艇寄港反対運動をめぐって」『地理学評論』78（10）、pp.634-648。
- 山本理佳（2015）「大和ミュージアム設立を契機とする呉市周辺の観光変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』193、pp.187-219。
- ミリタリー・カルチャー研究会（2020）『ミリタリー・カルチャー研究：データで読む現代日本の戦争観』、青弓社。

#### 【引用サイト】

- キニナルベル（2020）「2019年艦これ呉コラボ抜錨！イベント関連情報まとめ！」（<https://kininaruberu.com/event/kure2019>）[2020年9月2日参照]。
- 旧軍港市振興協議会（2020）『平和産業港湾都市 旧軍港4市—横須賀・呉・佐世保・舞鶴』（<http://www.kyugun.jp/>）[2020年8月29日参照]。
- 旧軍港市日本遺産活用推進協議会（2017）『鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍

- 動を体感できるまち〜』(www.kyugun.jp/pdf/story\_book.pdf) [2020年8月29日参照].
- 京都新聞社 (2019) 「艦これイベント人気「聖地」舞鶴にぎわう JRは臨時列車」(https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/5659) [2020年9月2日参照].
- 呉観光協会 (n.d.) 「呉観光協会」(http://www.kure-kankou.jp/spot\_list.html?id=2&area=1) [2020年8月29日参照].
- 「劇場版艦これ」 連合艦隊司令部 (2016) 「作品紹介」(http://kancolle-anime.jp/about/) [2020年8月25日参照].
- 佐世保観光コンベンション協会 (2020) 「海風の国」(https://www.sasebo99.com/tour/?search\_keyword=&search\_area=11&search\_theme=&action=list) [2020年8月29日参照].
- トライアングル (2020) 「YOKOSUKA 軍港めぐり」(https://www.tryangle-web.com/naval-port/about.html) [2020年8月27日参照].
- 長崎県観光連盟長崎県文化観光国際部観光振興課 (2020) 「SASEBO 軍港クルーズ」(https://www.nagasaki-tabinet.com/tour/62500/) [2020年8月27日参照].
- 長崎新聞社 (2019) 「「艦これ」 イベント盛況! 新たな層の観光客誘致に成功 佐世保」(https://this.kiji.is/549791097950782561?c=174761113988793844) [2020年9月2日参照].
- 西日本新聞 (2018) 「エンプラ佐世保寄港から50年 「闘争」証言と写真で回顧 「反戦運動の分かれ道に」(https://www.cocoyoko.net/spot/area/area02/) [2020年9月1日参照].
- 日本遺産ポータルサイト (n.d.) 「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」(https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/stories/story035/) [2020年8月25日参照].
- バンカー・サプライ (2020) 「呉湾艦船めぐり」(https://bunker-supply.com/blog/kansen/) [2020年8月27日参照].
- 文化庁 (2020) 「「日本遺産 (Japan Heritage)」について」(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon\_isan/index.html) [2020年9月2日参照].
- 舞鶴観光協会 (n.d.) 「まいづる観光ネット」(http://www.maizuru-kanko.net/spot/sightseeing/) [2020年8月29日参照].
- 舞鶴港遊覧船 (2020) 「舞鶴湾めぐり遊覧船」(http://maizuru-yuransen.com/) [2020年8月27日参照].
- 横須賀集客促進実行委員会 (n.d.) 「ここは横須賀」(https://www.cocoyoko.net/spot/area/area02/) [2020年8月29日参照].
- 横須賀集客促進・魅力発信実行委員会 (n.d.) 「「艦これ」 鎮守府第三次「瑞雲」祭り in 横浜・八景島シーパラダイス特設泊地 開催記念 【拡張作戦】 in 横須賀泊地」(https://www.cocoyoko.net/event/kankore-zuipara.html) [2020年9月2日参照].

(2020年11月10日受理)